平成２８年度　第２回 アーバンデザインスクール 実績報告

平成 28 年 12 月 10 日
草津市総合政策部草津未来研究所
アーバンデザインセンターびわこ・くさつ

1. アーバンデザインスクールの目的

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）は市民・大学・企業・行政のそれぞれの立場の人々が気軽に立ち寄り、草津市の未来について自由に語り合う場として開設した。アーバンデザインスクールでは、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）の企画や運営に積極的に関わり、専門家と市民の間のより円滑な意見交流をサポートする、媒介の機能を担う専門家の育成を目的とする。

2. アーバンデザインスクール内容等

初年度ということから、「アーバンデザインスクールを知る」をテーマに５回シリーズで実施する。全５回のコーディネーターは肥塚浩氏（立命館大学経営学部教授）。

各回スケジュールは以下のとおり。

機　能	日時	内　容
第1回	平成28年11月12日(土曜)	テーマ：「アーバンデザインセンターとは？」 講　師：信時正人氏 （立命館大学デザイン科学研究センター客員研究員）
第2回	平成28年12月10日(土曜)	テーマ：「松山アーバンデザインセンターの運営」 講　師：松本啓治氏 （愛媛大学防災情報研究センターアーバンデザイン研究部門教授）
第3回	平成29年1月14日(土曜)	テーマ：「UDCBKのコンセプトができるまで」 講　師：溝内辰夫 （UDCBKシニアディレクター）
第4回	平成29年2月18日(土曜)	テーマ：「南草津駅の商業集積について（仮）」 講　師：大橋康男 （草津市都市計画部まちなか再生課参事）
第5回	平成29年3月11日(土曜)	テーマ：「これからのUDCBKについて」 講　師：及川清昭 （UDCBKセンター長・立命館大学理工学部教授）

いずれも会場は市民交流プラザ中会議室で行う。

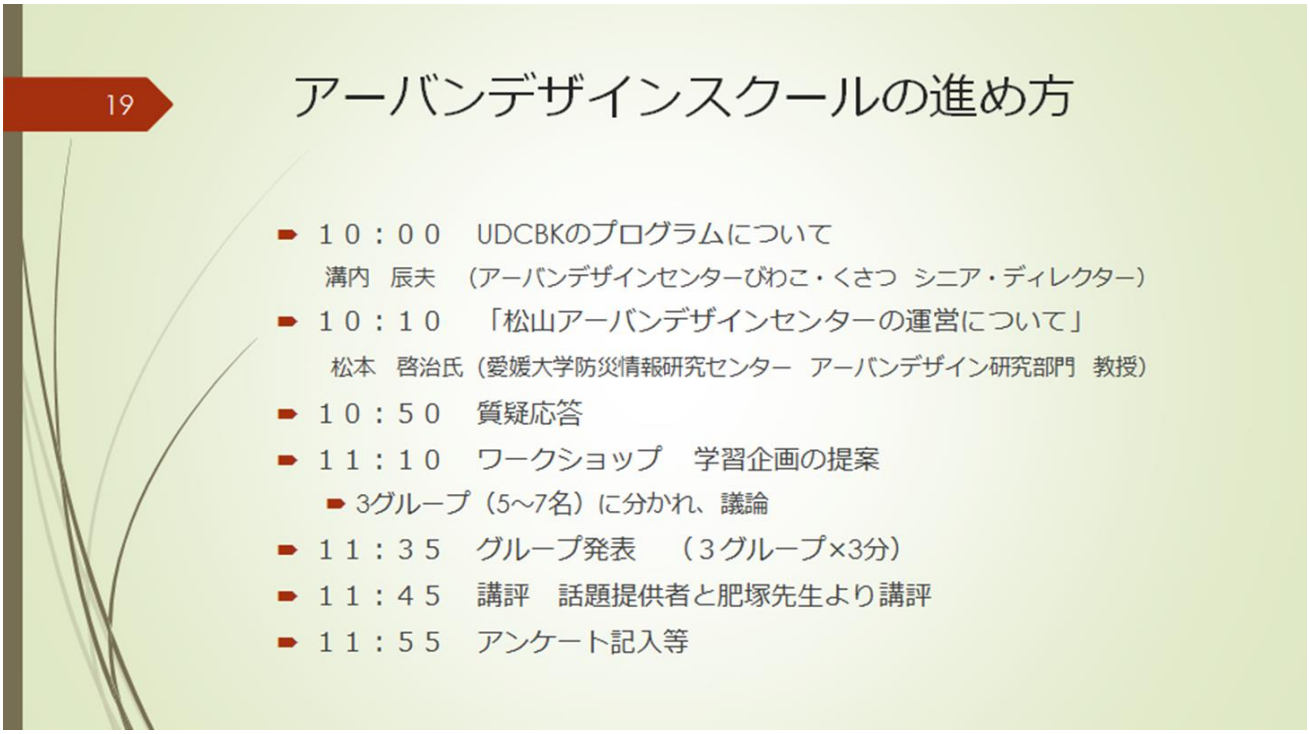
時間は午前 10 時から正午まで。

3. 第２回 アーバンデザインスクール概要

（1）テーマ・目的等

① テ ー マ：「松山アーバンデザインセンターの運営」
② 内　　容：UDCBK の設立の参考にした松山アーバンデザインセンター（UDCM）の松本氏を迎え、UDCM に人を呼び込む工夫や、魅力あるプログラムの作り方についてお話いただく
③ 開 催 日：平成２８年１２月 10 日（土曜）午前 10 時から正午まで
④ 開催場所：市民交流プラザ　中会議室（フェリエ南草津５階）
⑤ 講　　師：松本　啓治 氏
（愛媛大学防災情報研究センターアーバンデザイン研究部門教授）
⑥ ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：肥塚　浩 氏
（立命館大学経営学部教授）

（2）当日のスケジュール



4. 第２回アーバンデザインスクールの内容について

（１）松本啓治氏（愛媛大学防災情報研究センターアーバンデザイン研究部門教授）による話題提供
テーマ：「松山アーバンデザインセンターの運営」（約 40 分間）

写真 1.講義のようす

松山アーバンデザインセンター（UDCM）の概要説明

・松山市の中心でまちのデザインを考え、再開発やまちの更新をリードしていくことを目的に設立された。

大学との関係

・大学の研究の蓄積や、若い学生の発想力や企画力がまちづくりに活かせる。また、全国の大学の協力を得られ、UDC の活動の強みになる。

UDCM の運営・役割

４つのテーマでまちづくりを進める。

・交わる
ネット上での交流が増える一方で、面と向かった直接的な交流を求めている人もいるため、みんなが集う場をつくる。

・創る
地域デザイン。まちの老朽化や景観を整える。

・学ぶ
若い人たちにまちづくりについて学ぶ場をつくる。

・知る
さまざまな活動の情報発信を行う。

UDCM での取り組み例

➢ UDCM の拠点作り

もとは駐車場であった空き地とビルを借りて社会実験を行っている。

空間をどのように利用したいか、何を求めるか、どうしたら楽しめるかをワークショップで空き地とビル（外と内）の空間の利用について議論してもらう。議論の結果、まちなかには休憩する場所が求められていることが分かった。

今後、空き地の広場に愛着をもってもらうために、公園整備にも関わってもらい、芝生の広場や土管を設置した。

また、ビルの 1 階では子どもの創作活動や、多様な研究会や社会実験、まちづくりに関する相談事を受け付けるなど、だれもが無料で利用できる空間にした。

UDCM に訪れる人々の多様なまちづくりに関する相談事に対して、役所にも話を持って行き、解決策を提案するなどの対応をしている。

➢ アーバンデザインスクールの運営

30 名程度の学生や一般市民が企画から実践に至るまでプロジェクトを進める学習プログラムを展開している。まちの賑わいの創出を目的に地域の人々の知恵を貸してもらう。年間約 20 回、隔週で授業終わりの学生や仕事終わりの人でも参加できるように、18 時 30 分から 20 時 30 分の 2 時間で行っている。

年間スケジュールの前半には、ガイダンスやまちづくりについてのワークショップを行い、大学の教授や市役所の職員を招き、「今、まちのなかで困っていること」を発表してもらい、まちづくりのヒントにする。また、「まち歩き」と題し、まちなかを歩いて地域に何が必要かを考える。

自主調査を行った上で、プロジェクトのテーマを決めて企画する。途中、プロジェクトの中間発表を行い、地元関係者の意見を聞き入れながら実践に移す。

プロジェクトを進める中で失敗することもあるが、スクールやプログラムを通して、地域の人々や大学関係者、企業、役所の各部署の人々と交流をもつことが重要である。

（2）質疑応答

肥塚浩氏（立命館大学経営学部教授）の進行で参加者からの質問に回答。

Q.1　市民からの提案の採用基準はどのようなものか。
また、市民の期待に応えるためにどんな運営をしているのか。

➢ ・断らずに、実行を前提に話を聞く。
・提案の採用基準をできるだけ緩いルールにする。
・１つの提案だけでの実現が難しくても、いくつかの提案を合体させるなど、出来なかったことを可能にするよう工夫する。
・出来ない場合は、なぜ出来ないのかを理解してもらうために、関係部署に行き、理由を一緒に聞いてもらう。
・活動の成果として、プロジェクトの企画、実施プロセス、結果がわかる冊子（写真集）を作成している。参加者の財産になる。
・参加者がプロジェクトを通して多くの人と関わりを持つことが重要である。また、UDC がその人と人とをつなぐ接着剤（プラットフォーム）の役割を果たすことが重要である。

Q.2　広場の使い方のルールはどのようなものか。
どんな小さなことでもできるのか。

➢ ・広場を創るときと同様、ルールもワークショップで決めた。
・ルールに問題が生じたときも、運営委員で逐一相談して方針を決めている。
・どんな小さな提案でも、まちづくりに関わるものは許可している。

写真 2.質疑応答のようす

Q.3　運営のための予算はどうしているのか。

- ・松山市、商工会議所、地元企業、まちづくり会社から運営を補助してもらっている。
  ・企画に対して予算を決めて活動してもらう。
  ・来年度からは、企業名を出すこと等を条件に運営に関わってもらうよう働きかけている。

Q.4　学生を集める方法はなにか。

- ・松山市内にある４大学の広報や大学の掲示板に PR している。
  ・まちづくりに関係する先生やゼミに参加を呼びかける。
  ・学生から学生へ広めてもらっている。

（３）グループディスカッション

５グループに分かれて「来年度からの学習企画の提案」について議論。（約 20 分間）

５つのグループに分かれ、「UDCBK でどのような企画や研究をしたいか？また、企画をする上での問題点や具体的な進め方」をテーマに各グループで議論し、意見をふせんやカラーマーカーを使って模造紙にまとめていただきました。

写真３．各グループの話し合いのようす

（4）各グループのまとめを発表

各グループの意見

① ・UDCBK は自治会（町内会）と学生や自治会に加入していない人、外国人等をつなぐ、橋渡し役をしてもらいたい。
・自治会離れや、自治会に入りたいけど入り方がわからない人がいることが問題。
・一人ひとりの負担を軽くし活動を広げるようにする。

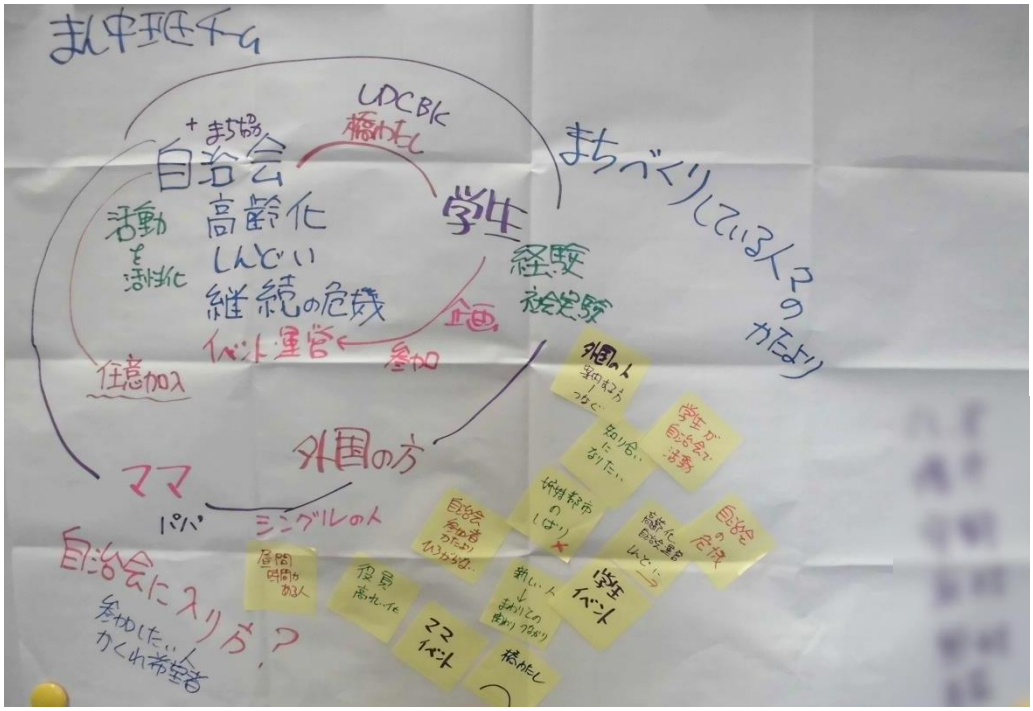


写真４．グループのまとめ

② ・１つの分野に特化せず、異分野の人たちが集まり交流することで様々なことができる（シナジー効果を生む）場になると良い。
・草津の文化について話し合える場にしたい。

写真 5.発表のようす

③ ・大学生が学んだことを伝える場。
・障害を持った人や高齢の人への接し方を学べる場。
・公務員の意識改革をしてほしい。
・BKC に留学生が増えたため、留学生（外国の方）のニーズに応えるようにしたい。（様々な宗教や文化に対応した食事や集う場の確保や、交通機関などの案内の多言語化）
・草津のお土産を創りたい。

写真 5.各グループのまとめ

④　・交通の利便性を見直す。
　　・見知らぬ人と人とが交流できる場として UDCBK が様々な機会をつくる。

⑤　・様々な立場の人たち、UDCBK に来たくても来られない人が参加できる場をつくることが共生につながる。

（5）講評

➢　松本氏

・自治会は地域に住む人をつなぐ役割を持つため重要。女性が積極的に参加できる場にしてほしい。
・まちに愛着をもつためにも、まちづくりには歴史と文化が重要。
・バリアをなくすまちづくりが必要。まちなかの交通案内の多言語化は参考になった。
・草津の土産、名物を創るのも良い。（UDCBK のお菓子を作るなど）
・コミュニティの希薄化が言われている。様々な人をつないでいってほしい。

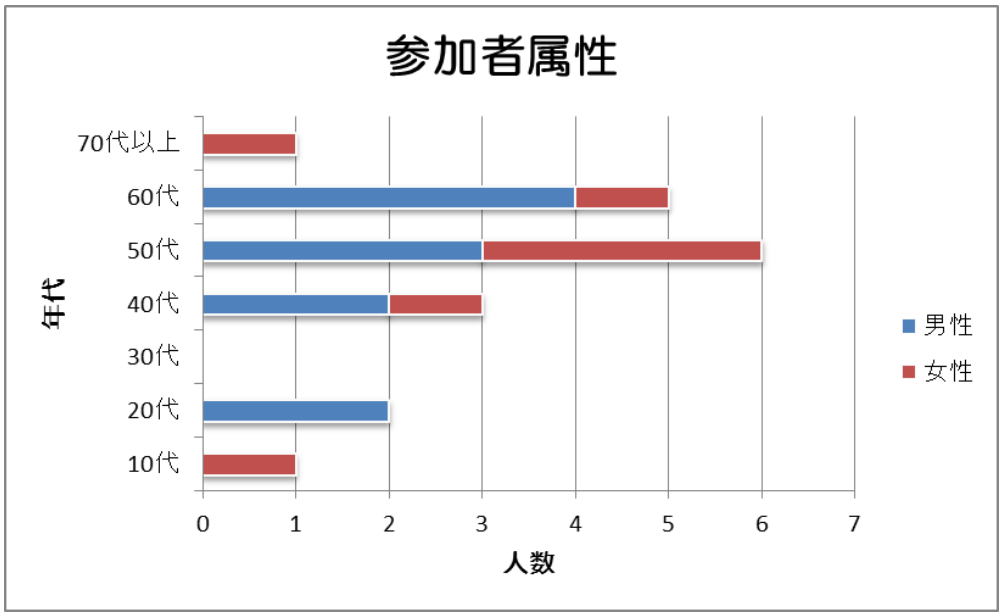
➢　及川氏

・UDCM は 2 年前に行き、広場を見学した。様々な活動をされていたことに驚いた。
・たくさんの事例を聞き、今後 UDCBK も見習いたいと思う。

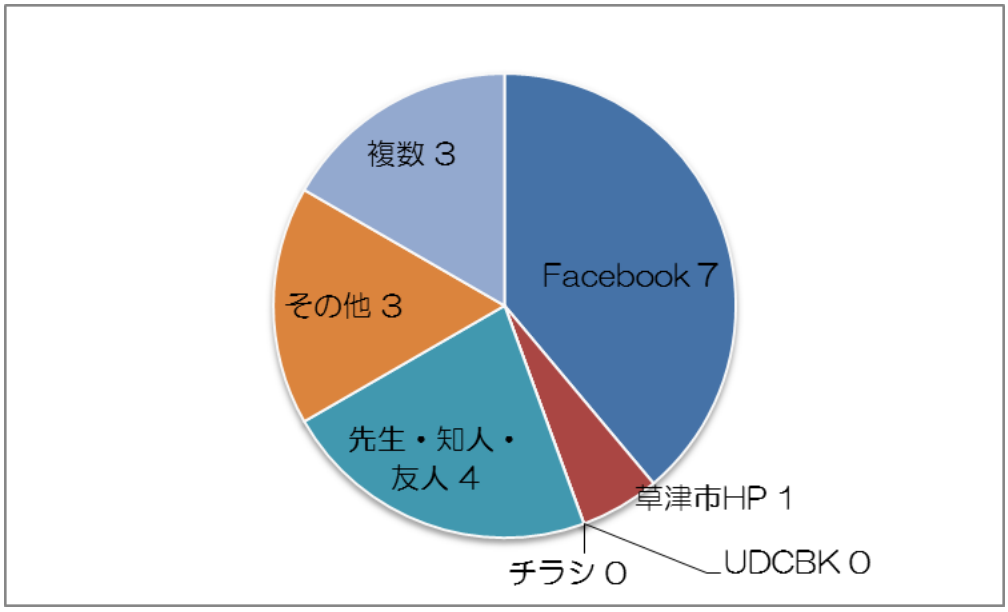
5. 第２回 アーバンデザインセンターとしてのまとめ

➢ アンケート集計結果

参加者数 27 名に対して、アンケート回収数は 18 件でした。回答率は 66%でした。
前回と同様に男性参加者、年代では 50 代の参加者が多い結果となりました。



Q.アーバンデザインスクールをどこで（何で）知りましたか？



今回は Facebook でセミナーの情報を知った方が多い結果となりました。

- セミナー参加者の主な意見
  - UDC 松山の取り組みを聞かせていただき大変勉強になった。UDCBK では様々な分野の方々との交流と人のつながりを期待しております。

  - アーバンデザインセンターの活動目的が少しはっきりしましたが、ややわかりにくいところがあるのではないかと感じた。

  - 松山の具体的な活動が良くわかり参考になった。これから UDCBK のスクール内容についても市民が作り上げていくのが楽しみです。

  - 松山アーバンデザインセンターの活発な活動、魅力あるイベントを知り、住んでみたい町だと思いました。UDCBK には人のつながりを最も期待しています。

  - ワークショップの時間が少し短い・話し合い方、まとめ方、発表の仕方など少しレクチャーがあるといい・PPAP のような短い歌（メロディー）に UDCBK をのせる

  - まずはこの機能を広く周知できることに尽力をお願いしたいです。まちセン・コミセン他に多くの市民活動団体がそれぞれ活動していますが、連携できるといいのでは・・・

  - 松山の具体的事例が参考になりました。なるだけゆるいルール、自分たち（皆くる）で考えたルールの元で自由参画の雰囲気で良いというところで今後の活気あるオープンスペースの利用に期待します。テーマでの発表も各々興味ある発想でとても良かったです。（ワクどき感満載！！）

  - 内容が濃いのは良いけどタイムスケジュールは守ってほしい。

- UDCBK としての成果

  UDCBK は、産学公民様々な立場の人たちが立場を離れ、気軽に自由にアイデアを出し合い、様々な活動を行うことを支援する場所です。UDCM の具体な活動をお聞きすることによって、活動のイメージが喚起できたと考えます。

- 今後の課題

  UDCM の場合、松山市から愛媛大学が委託を受け、事業を実施しているため、行政的手続きに縛られず、スピーディに対応することができます。一方で、UDCBK は行政機関であり、いかにスピーディに対応していけるかが課題です。